

平成28年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	・漢字、語彙、文法などの言語に関する知識が乏しい生徒が目立つ。また、話の中心的内容を把握する力が弱い。文章を読み慣れていないことと語彙力が乏しいことが原因であろう。したがって、自分の考えを文にまとめる力、構成を考えて、文章にする力、的確な言葉で表現する力、工夫した表現をする力が身につけていない実態につながっていると考える。	・言語事項の育成のために、言語知識を確認する定期的な小テストを実施する。文章読解力のために、多様な文章を読ませ、目標を重点化させた読解法を学ばせる。また、出題形式にも慣れさせるため単元毎の演習問題にも取り組む。作文は総合的な力が必要なので、単元毎に書く活動を取り入れ、相互交流を行い評価、添削する機会を増やす。	
数学	・基礎的計算力は全体的に高いが、比例式や柱状グラフを読みとる問題など、数学的な考え方を問うものに弱い。 ・機械的に計算問題に取り組んでおり、根本の知識の定着が不完全であると考えられる。	・授業の冒頭で基礎計算の小テストや数学の用語の意味や知識の確認を継続的に取り組む。また、各単元のつながりや、次年度の内容とのつながりを意識させるために、意図的に復習の問題を導入に取り入れる。得た知識を用いて、生徒自らが数学的に説明する機会を増やし、数学的な見方や考え方を育成する。	
社会	・授業中に積極的に発言する生徒が多いが、集中力が続かない場面も多く見られる。 ・定期考査の結果では、基本的な知識が身に付いていないことが分析できる。	・授業開始時に本時のねらいを提示し、今なにを学んでいるのかという意識をもって授業に参加させる。 ・毎回の授業の冒頭で、小テストを行い、前時の授業の復習をし、基礎的な知識の習得を目指す。	
理科	・基本的には落ち着いて学習し、真面目に取り組もうとしている姿勢がうかがえるが、家庭学習の習慣がついていない。プリントや試験問題などに取り組ませても、慣れていない面もあるが、人に見てもらふ姿勢が感じられない(字が雑であったり、作図の線が曲がっていたり、雑であったりする。)実験や実習などには素直に取り組む、実験器具等も扱いが丁寧に破損等もなかった。しかし、実験の目的やねらいを理解して実験を行っている生徒は少ないと思われる。	・生徒の実態に即して、授業の最初に、めあてや課題、目的を丁寧に説明し、目的意識をもって授業に臨めるよう努める。 ・実験・観察のプリントや、作図や計算の演習問題の添削や個別指導を放課後や長期休暇等を利用し、丁寧に行う。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きく、すでに技術の差がある。その原因の一つは階名で楽譜を読む能力の差と、指先の巧緻性にあると考える。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。②スモールステップ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。	
美術	・表現したいイメージを言語化し整理して表現に活かすことが苦手な生徒がいる。	言語化→造形表現というプロセスを、簡単おのからはじめ、徐々に表現の幅を増やさせていく。	
保健体育	・意欲的に取り組む生徒が多い。ただ、集中力に欠ける生徒も多い。 ・課題をもって取り組んだり、仲間と協力して取り組んだりする姿勢が少ない。	・活動の内容を明確にするとともに、活動時間の調整や説明を端的にするなどの工夫をする。 ・課題を細かく提示し、自身の課題がどこにあるかを把握させる。また、学習カードの活用、アクティブラーニングを取り入れ、生徒同士の学び合いの場を作る。	
技術・家庭	<家庭>ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるものの、実技の進捗に差が見られる。 <技術>よく取り組もうとする。発想力があり、具現化しようとするが、そのための基礎的・基本的技能と知識が不十分である。	<家庭>個別の声かけ、指導を行う。 <技術>基礎的・基本的技能と知識の習得を第一に、体験活動を増やし、技能テストを適宜実施する。	
外国語(英語)	・英語に興味をもち、学習意欲や理解力がある生徒がいる反面、基本的な語彙力や理解力が不足していて、学習意欲が低い生徒も少なからず存在している。一年次での学力差は、主に「学習意欲があるかどうか」、「文字と音との関連性を習得できるか」、「日本語と英語の語順の違いを理解できるか」、「家庭学習を行えているかどうか」の四点が起因していると考えられる。	・宿題や提出物などは期限を厳守させる。 ・授業の流れを明示し、三つ以上の活動を設定する。 ・到達度の高い生徒に対しては、発展的な問題を提供するなど、学習意欲をより高める。 ・集中力が低下しないよう、音読やスピーチ、基礎的内容のゲームなどの多様な活動を入れる。 ・基礎的内容のペアやグループワーク等の機会を設け、学び合いの場を作る。	

平成28年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第2学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<p>【言語知識面】小学校6年までの漢字の読み書きについて日常の使用頻度の低いものの習得率が低い。日常的に使う漢字についても指導を繰り返しているが定着できない生徒が固定されている。</p> <p>【発展・応用力】読み取った情報を基に、解釈・推論し、課題を解決する力が弱い。また、問題を的確に把握できず正しく解答できていないことも考えられる。記述問題では、単純な漢字のミスや表現方法の不自然さが目立つ。</p>	<p>・小学校6年生までの漢字の定着については、日常生活で使用させることを今まで以上に意識させる。また、生徒が日常的に「間違えやすい漢字」を一覧にして、細部に注意させて確認、練習させる。さらに確認テストを実施して定着率を把握する。語彙力を高めるために、意識的に別の表現を使って書き直す練習をする。また、発表・交流によって多様な表現方法を学ばせる。文学的文章を使って、表現描写のしかたを学び、生徒自らの描写力を磨くため、書く練習を取り入れる。</p>	
数学	<p>・基礎的な知識・理解が不十分で発展問題を苦手にしてしている生徒が多い。</p> <p>・技術問題での計算はできるが、その技術を生かしたり、作図や円錐の体積を求めようとしたりすることが苦手である。</p> <p>・文章題では観点に限らず正答率が極端に低くなっている。応用力や数学的な知識を活用する力が低い。</p> <p>・教科に関する内容では、それ以外の観点が都の平均を越えている中、「思考・判断・表現」が都の平均より2%ほど下回っており課題である。</p> <p>・「関心・意欲・態度」では86%を超えているが、都の平均を3%も下回っている。</p>	<p>・昨年度効果を得た授業の冒頭に行う基礎的・基本的な内容の確認テストを実施し、技能や知識・理解の問題を反復して行うことで修得を目指す。</p> <p>・問題の苦手意識を無くすために、興味のある話や身近な話の文章問題を取り扱う機会をなるべく多く設定し指導していく。</p> <p>・文章題など同じような問題でも、複数通りの解法を提示し理解させることで数学的な考え方を伸ばす。</p> <p>・授業の中で興味を引く内容を取り入れて指導していくと同時に家庭学習の確実な習慣化を図る。</p>	
社会	<p>・読み解く力に関する内容は概ね都平均を越えている。</p> <p>・個人でじっくりと考えさせる時間もつくていく必要がある。</p> <p>・教科に関する内容の「知識・理解」が極点に低く、都平均よりも4%も下回っている。</p> <p>・「思考・判断・表現」も3%ほど都平均を下回っている。</p>	<p>・毎回の授業の冒頭で、小テストを行い、前時の授業の復習をする。また単元が終わる時にまとめの小テストを行い、基礎的な知識の習得を目指す。</p> <p>・学期に1回程度、習得した知識を活用して考える課題を提示し、グループ学習や討論を行うことで、思考力・判断力・表現力を伸ばす。</p>	
理科	<p>・複数の条件を組み合わせて、比較・関連付けて読み取る力に課題がある。また現象の時間経過を論理立てて推論できていない生徒が多い。</p>	<p>・対照実験を多く取り入れ、一つ一つの条件を分けて現象をとらえる力を付けさせる。また地層や化学変化など、時間変化によって、刻々と変わっていく現象について、問題演習で取り上げる。</p>	
音楽	<p>・合唱・鑑賞に関しては意欲的に取り組んでいる生徒が多い。器楽に関しては、苦手意識からか、取り組みの姿勢に個人差が見られる。</p>	<p>①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。②スモールステップ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。④パートリーダーの育成</p>	
美術	<p>・表現したいイメージを広げるための努力を日常的に行えないでいる生徒が多く見受けられる。</p>	<p>・発想の源になるもの(書籍やメディア、日常の風景など)をできるだけ授業の中で紹介し、表現活動にいかせるようにする。</p>	
保健体育	<p>・授業規律が守られ、生徒の意欲も高く進められている。ただ、単元ごとに目標としている、技能動作習得には個人差があるため、各生徒に合った目標設定を明確にしていきたい。</p> <p>・観点別評価で「思考・判断」の評価が十分でない。そのため、活動内容を精選し、学習カードやアクティブラーニングの活用をしていく。</p>	<p>・各生徒が自分に合った目標設定をさせ、活動内容の充実をはかる。そのために、学習カードを活用し、アクティブラーニングを授業の中で取り入れ、自主的に取り組んでいく授業を目指す。</p>	
技術・家庭	<p><家庭>ほとんどの生徒が真剣に取り組んでいるが、クラスによっては私語が多いときがあったり集中力が続かないことがある。</p> <p><技術>よく取り組む生徒が多い。教えあったり助けあったりする場面が多く見られる。まだ何となく取り組む生徒もいるので、技術と生活のつながりを感じられると、より身近な教科となる。</p>	<p><家庭>全体で注意するよう個人の意識を高めるようにする。問題のある生徒には個別の声かけをする。</p> <p><技術>体験活動を多く設定し、その技能や知識が生活のどこに活用されているかを知る機会を提供する。その際にICT機器を活用し、視覚的に訴える工夫を行う。</p>	
外国語(英語)	<p>・知識や理解の能力はあるが、それを使った表現力(特に話すことや書くこと)に課題が見られる。</p> <p>・上位層と下位層の習熟度の差が激しい。</p> <p>・英語に対するの苦手意識からか、関心・意欲の低い生徒が多い。</p>	<p>・文法を、基礎的事項に重点を置きながら指導する。文構造については、ドリル学習時に強調して指導したり、文法を踏まえた表現活動に力を入れることで、定着を図っていく。</p> <p>・語彙力のアップを図ったり、音読を繰り返させたり、暗唱させたりして表現のインプットを図る。また、多くの英文に触れさせたり、精読も行っていく。</p>	

平成28年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す能力に比べ聞きとる能力が低い数値で、読む能力もこれに比例して低い数値を示している。自らの意見をまとめる点において語彙力の不足が目立つ。漢字や語句の意味は理解できても、表現する時点で言葉の選択、識別が困難になるとと思われる。 ・文章から事実と意見を識別し、自らの考えや意見を記述する能力が不足している。文学的文章での登場人物の心情変化などの読み取りは充分に対応する能力があるが、説明的文章の要旨を捉える力はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすために学力向上テストの内容に、語句の意味や類義語、対義語など言語知識を問う設問を多く入れて実施する。 ・文章の読解能力を維持発展させるため、板書以外に口述筆記の授業展開を意図的に増加する。また、説明的文章の読解の際、段落要旨を短文で記述する展開を多用する。 ・国語に関する興味関心を高める教材や読書意欲を喚起する授業の工夫を行う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国学力・学習状況調査」の結果から、「A主として知識に関する調査」では、知識・理解の観点、「B主として活用の調査」では数学的な見方・考え方の観点に課題がある。領域別では関数の領域で都の平均を下回る問題が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎クラスにおいては、丁寧な授業、分かりやすい授業を行うことを心がけ、さらに授業の中で、振り返りの時間を設けて復習させるなどの工夫を行う。標準クラスでは、生徒が問題を解く場を増やすなど、基礎の定着及び応用力の向上などに努める。数学的活動を取り入れた授業の割合を増やすなど、授業の工夫を加えることで生徒が数学の楽しさを実感し、主体的に学ぶ力を培うことで、学力の向上につなげていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には集中して取り組んでいるが、世の中や社会に対する関心が低いと感じた。また、歴史的分野の基礎・基本的な用語についても、もっと理解しようとする努力が必要な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に対する関心を高めるために、写真や映像など可視化による授業をもっと取り入れたい。さらに、基礎・基本の確実な習得をめざして、授業内容の選厳、反復的な学習やまとめ方の工夫など、学力の向上につなげられるような手立てをしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の都の学力調査によると、理科のみが都の平均点を越えている。また、今年度の生徒アンケートより、理科の授業を理解できる、また、おおむね理解できると答えた生徒の割合が、約92%と高い割合を示しており、熱心に授業に取り組む様子が見える。また、科学的に思考することが好きな生徒や実験が好きな生徒も多く、学年全体として理科が好きな生徒が多いと思われる。 しかし、7月に復習確認テストでは、都の平均を下回る結果となり、学習内容の定着が不十分である。また、家庭学習が十分でない生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前の2～3時間の授業を、問題演習の時間とし、過去の高校入試問題や計算問題の演習を丁寧に行う。 ・長期休業中等を利用し、生徒が不得意とする分野の補習教室を2～3日程度行う。 ・生徒に考えさせる発問を多くし、ただ見ているだけの生徒がいないような授業展開を行う。 ・実験の際には、必ず考察を書かせ、なぜそのような結果になったのかを科学的に思考する訓練を行う。 ・パワーポイントなどのICT機器を活用し、実験の方法や復習、まとめなどをスムーズに行えるようにする。 ・生徒の興味を引く実験を多く行い、理科が好きな生徒の興味をさらに引き出すよう努める。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞に関しては意欲的に取り組んでいる生徒が多い。合唱・器楽に関しては、苦手意識からか、取り組みの姿勢に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。②スモールステップ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。④パートリーダーを中心とした練習。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・内面に眠る自己のエネルギーに気づかず、表現に活かせない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを探る言語活動(マインドマップなど)を取り入れ、それを表現活動にいかすためのヒントを単元毎に工夫し取り入れる。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には授業に取り組む姿勢は良いが、手伝いや準備、片づけなど、自主的に行動することに課題がある。 ・球技では空間を意識した動きができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やる人がやるということではなく、全員が授業を大切にできるように、役割分担を明確にし、それぞれに活動できる機会を意図的につくり、自主性を育む。 ・ボードなどを利用し、客観的にその空間があるということ、その空間をどのように活かすかを伝え、教材を工夫し取り組ませる。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・<家庭>実技に関してはほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるが、数人集中が続かない生徒もいる。ノートの記入が完璧でない生徒がいる。 ・<技術>多くの生徒が意欲的に授業を受ける姿勢ができている。取り組み方にムラがある生徒もいるが、周りで教えてあって作業が行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<家庭>個別の声かけをしてやる気を引き出す。ノートは机間指導をしてチェックする。 ・<技術>ポイントを精査し、実物投影機などを活用して、聞くだけでなく見て触って体験する学習活動を増やしていく。 	
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・上位層と下位層の学力差と学習意欲の差が大きい。 ・リスニング、長文を読み取る力が弱い。 ・正確な文法知識に基づいて英作文を書く力が弱い。 ・語彙が少なく英語表現が身につけていないため、言いたいことを表現できる力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語彙や読解のトレーニングとして、音読・単語テスト・読解練習を行う。 ・学力向上テストを隔週で行い、知識の定着を図る。 ・読む練習と同時に、集中して英語を聞く時間をできるだけとる。 ・授業で問題演習をさせたり、家庭での練習を課す。 	